



# 来年から実施される

## 大根占水田整理事業のあらまし

いま、大根占水田区画整理事業の説明座談会が開かれ、同意書の取りまとめの事務を進めておりますが、座談会に出席できなかつた人や、よくわからなかつた人もあつたかと思われ、また、この事業を、みんなが、よく認識してこの大きな事業の完遂に御協力いただくよう、そのあらましを、お知らせすることいたします。

### ※ 現況と目的

大根占水田はいまから約三百年前、鳥津藩の大隅地方産業開発の大事業として、根占町雄川の水を導入し、根占町北、大根占町馬場、城元の平地を開拓されたもので、当時は人力だけの作業で開拓しやすいような形で、できていますから一枚ごとの広さや形もまちまちで、小溝も道路もつかない田が多く、水のかけひき、堆肥の持ち出し、生産物の運搬に苦労が多く、とにかく最近では若い労働力が少ないので金肥に頼り過ぎ、軟弱な病気に弱い稻作りをくり返し、地力の減退に拍車をかけています。このように姿なので年間収益は約五千万円で反当り四万円に足りません。それに、この地帶は烟が遠く、また、少いので水田を何回も利用することがあります。現在、木場の上や、大橋上では旱期水稻が増えて、その裏作で稻よ

りも高い現金収入をあげている人が多いのですが、全部の水田がこのよくな姿になるには、いまのような水路や道路の状況では、どこでも早期水稻を作れませんので、一枚ごとに道路、水路、排水路がつき、思うように水のかけひきができる区画に整理することが望まれるところです。

### ※ この事業を始める

#### ことになつた動機

反当り額 負担額	町補助 見込み	差引受益 負担額	長期融資 額	現金負担額	摘要	
					借入金の条件 年償還年利	三償 年利5分5厘
円 22,785.6	円 836	円 15,949	円 12,759	円 3,190	年利5分5厘	

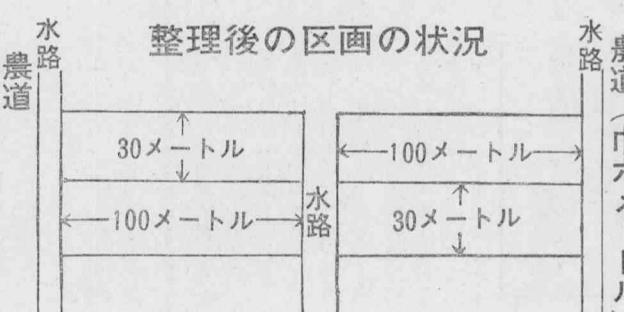
### ※ 計画のあらまし

#### 1、実施する地区的範囲

役場から六反田へ通ずる中学校前の道路から南へ、東の方は上の宇都田んぼの城内へ

区分	現在の状況		区画整理実施後		
	台帳面積	筆数	実測面積	筆数	面積
田	105.5町	3,581筆	127.72町	524筆	127.85
畠	0.68	27	0.85	0	0
その他	0.85	8	0	0	0
道 路			12.13		8.29
水 路				用水路2,09 排水路2,47	
計	106.84	3,886	140.70		140.70

### 整理後の区画の状況



### ※ むすび

実施後もまた採点してそれに応じた場所を、配分しますが何ヶ所も耕作している人は、大体一ヶ所にまとまりますので経営調査の場合その要望を申し出るとよいと思います。また、配分される面積はすでに一枚ごとに実測してあり、台帳でなく実測面積で配分する予定であります。

### ※ 事業完了後の

#### 営農改善

この事業は、単に米の増收

(文・経済課長 中村清三)

線は国道指宿宮崎線から東側山手は幹線水路(土堤)から下と南端は山ノ口の国道から東側の全部の水田が、事業実施地区の範囲であります。

### 2、一反当りの事業費と負担の方法

この事業で、一番不安となるのは負担金額と土地の配分がどのようになるかということがあります。土地の配分は、受益者の中から推せんされた評価委員が現況の各筆ごとに地力、利便などによる探点を行い

も、この事業は町の産業振興に最も大切なことであり、全面的にこれを促進協力することにしたのです。調査設計は町費をもって行ない、議会農業委員会、農協などの関係機関の協力を求めて推進委員会を結成し、十数回にわたり話し合いを重ね、また、最近この事業をしているところの視察調査を行なって、事業の順調な進行と、できるだけ農家負担が軽くて済むような方法を再々検討して座談会を開く段階に入つたものであります。しかしこの設計は昨年十二月頃の単価で算出してあります。しかし、この設計は昨年全反別割で負担し、一反当り負担は二二、七八五円となります。現金負担は、事業を三ヶ年で実施した場合一年に一〇六円というになります。

また、この工事には約二〇〇〇万円の人夫賃金が含まれており、できるだけこの事業に実施した場合一年に一〇六円というになります。現金負担は、事業を三ヶ年で実施した場合一年に一〇六円というになります。

### 3、区画整理後の配分方法

この事業で、一番不安となるのは負担金額と土地の配分がどのようになるかというこ

とです。土地の配分は、受益者の中から推せんされた評価委員が現況の各筆ごとに地力、利便などによる探点を行な

ります。土地の配分は、受益者の中から推せんされた評価委員が現況の各筆ごとに地力、利便などによる探点を行な

## 農家はみんな『くみあい』に入りましょう

これから農業は、農協を経由する資金を使って改善して行きましょう。農協に加入していないと、いろんな面で不利になります。

◇ 資材の購入、生産物の販売も全部「くみあい」へお願いします。

大根占・神川農業協同組合

表1 地域区分と営農指標

地域区分	対象区分	営農類型	現金所得		必要資金
			現在	目標	
第一地域	町地区	養豚+甘藷+早期水稻+きぬさや	円 88,368	円 363,679	円 194,000
第二地域	馬場中西	たばこ+和牛	214,362	397,672	186,000
		養豚+早期水稻+そさい	114,691	436,310	136,000
第三地域	元城鳥浜川神皆円	ほんかん専門型	109,121	1203,320	1357,000
		たばこ専門型	248,618	449,960	62,000
		畜産+甘しょ+きぬさや+稻作	160,152	937,675	194,000
		紅茶+和牛+甘しょ	160,276	403,470	304,000
第四地域	池田宿利原仲川中原原桜	温州みかん専門型	219,646	1711,474	1710,000
		たばこ専門型	230,446	476,212	52,000
		紅茶+和牛+甘しょ	160,276	103,470	304,000
		畜産+甘しょ+稻作	195,854	131,292	304,000

# 農家の台灯 営農指標

今、農業は曲り角にきたとよく云われているが、なぜ、曲らねばならないか、また、どのように曲つたらよいかを考えてみましょう。終戦直後の異常な荒廃状態から出発した日本の経済は急速な成長を遂げ、二八年ごろには、戦前の水準に達し、世界各国の注目を浴びながら成長の一途をたどってまいりました。しかしその内容をみてみると、商工業の成長は大きいが、農業はそれほど成長せず、このことが、都市勤労者の所得の向上にくらべて、農家所得の上昇低下という現象、すなわち、所得格差の開きとなつて現われてきたのです。この所得格差

町の農業をとりまく環境条件は、その地域によって、それぞれ違います。

町の農業をとた營農が打ち樹てられねばなりません。そのためには、その地域の特性を明らかにし、条件の違う地域と区分しなけ

る開きは、今後ますますひらいてゆく情勢になりますが、ここで、現在の収益性の低い、家業としての農業を改め、都市勤労者たちの所得を上げ、安定した農家生活が営なめるよう企業として成り立つ農業へ切りかえる、いわゆる農業の構造改善をしなければなりません。

このような時期に、本町では、今後の農業の指針とも云うべきものを作り、農家の営農改善の目標となり、ひいては、本町の農業構造改善事業の指針として営農指標を策定したものです。以下、順を追つて計画内容を説明いたします。

対象戸数一〇五戸

第一地域と同じく、經營規模が小さく(四〇アール)兼業農家も多いが、第一地域と違うのは水田が畑地よりも多いことです。従つてこの水田を有効に利用するため土地生産性の高いたばこが適しているので、たばこと和牛を組み合わせた型を作り、たばこを作らない農家は第一地域と同じく豚を主体とした経営で、これに早期水稻とそさい(きぬさや、馬鈴薯)を組み合わせた型を作り、たばこを

生産費を安く収益性を高めよう

が最も適しているか、また、作物をどのように組み合わせるかをきめるものであり、その方法として、まず、現在の営農のしくみがどのようなな

つており、どんな作物が作ら

れているか、現在は作られて

いないが、取り入れようとする

とどんな作物があるかを明

らかにし、これらの作物の中

で、その地域には、どの作物

がたばこ作の専門型農家とし

て、規模の拡大をしていたゞ

きたいと思います。そのほか

に二つの類型がありますが、これは第三地域と同じ考え方

です。

以上が各地域ごとの営農類

型ですが、これを各作物別に

その規模をみると表2のとお

りとなります。この中で専門

型であるほんかん、たばこ、

温州みかんが、大根占町の主

産地形成作物として推奨され

また、下場の養豚、上場の和

牛(生産)も複合型農家育成

策として推し進められるもの

と思われます。

以上の営農指標の示す方策

を述べましたが、この指標は

三十五年度農林業センサスを

基礎資料にして作成したもの

で、その後の情勢変化で、一

部修正を加えねばならない点

農家のみなさん、これから

一致団結して「個人はみんな

のために、みんなは個人のた

めに」を標語に、大根占町、

いや、南大隅を一円とした大

産地をつくり楽しい農業、

明るい生活ができるように、

努力しようではありませんか

(文、改良普及員 濱戸)

表2 作目の平均規模

作目名	内訳	平均規模
養豚	肉豚	20頭以上
	生産豚	2~3頭
たばこ	第二地域	30アール以上
	第三、四地域	50 "
ほんかん		50 "
温州みかん		80 "
畜産	和牛(生産)	5 頭
紅茶	肉豚	10 頭
和牛	生産	30アール以上

耕地の利用形態として、水田は早期水稻に切りかえ、その後作としてきぬさやを入れ、煙は甘しょを作り、その裏作

この地域の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこのようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

【第四地域】 対象戸数一〇五戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこのようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこのようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこのようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこのようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこのようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

【第三地域】 対象戸数六一七戸

この地の特色は、一戸当たりの経営規模が小さく(三一アール)兼業農家が多いこと

です。従つてこののようなところでは土地を多く必要としない

方がよく、養豚を取り入れるよう計画しております。

この地域別にみると、

【第一地区】 対象戸数一〇五戸

【第二地域】 対象戸数五六五戸

